

モモ



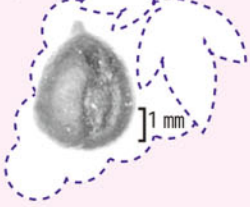
だいしひがしたんぼいせき
大師東丹保遺跡からは、約2000年前(弥生時代)のモモ核6点が発見されました。長さは平均で2.58cmと、現在のものよりも小さめです。



鎌倉時代のモモ核の発見状況 (大師東丹保遺跡第30号溝)

大師東丹保遺跡では、水田や流路などの水とかわかる地点から、祭祀に用いられるとされる斎串(いぐし)とともに出土するなど、モモが祭祀に用いられた状況がうかがわれます。

ブドウ



山梨県最古のブドウ(ブドウ属)の種子。現在と比べて小型で、ヤマブドウやエビヅルなどの野生種と考えられています。

スモモ



破片では徳永の遺跡から奈良時代のもも発見されています。

かき



大師東丹保遺跡では鎌倉時代の地層でカキの立ち木が発見され、植栽したものとみられています。

この3点の写真は全て大師東丹保遺跡

市内はモモ、スモモの最盛期を迎え、季節の風景に目を奪われます。幼い頃、出荷の手伝いをしては、自分でもいだ固めのモモを洗ってそのままかじりつくのが楽しかったなあって思い出しながら、ふと、幼い頃読んだ「桃太郎」を思い浮かべてみました。モモって縁起物でもあるし、昔は邪気を祓う力があると考えられていたんですね。だから桃太郎って鬼退治の話なんですよ。

ふと市内の大師東丹保遺跡のことを思い出しました。鎌倉時代の水田跡から、おまじないの道具と一緒にモモ核(※)がたくさん発見されたのです。やっぱり不思議な力があると思われたいですね。豊穣を祈ったのかもしれない。

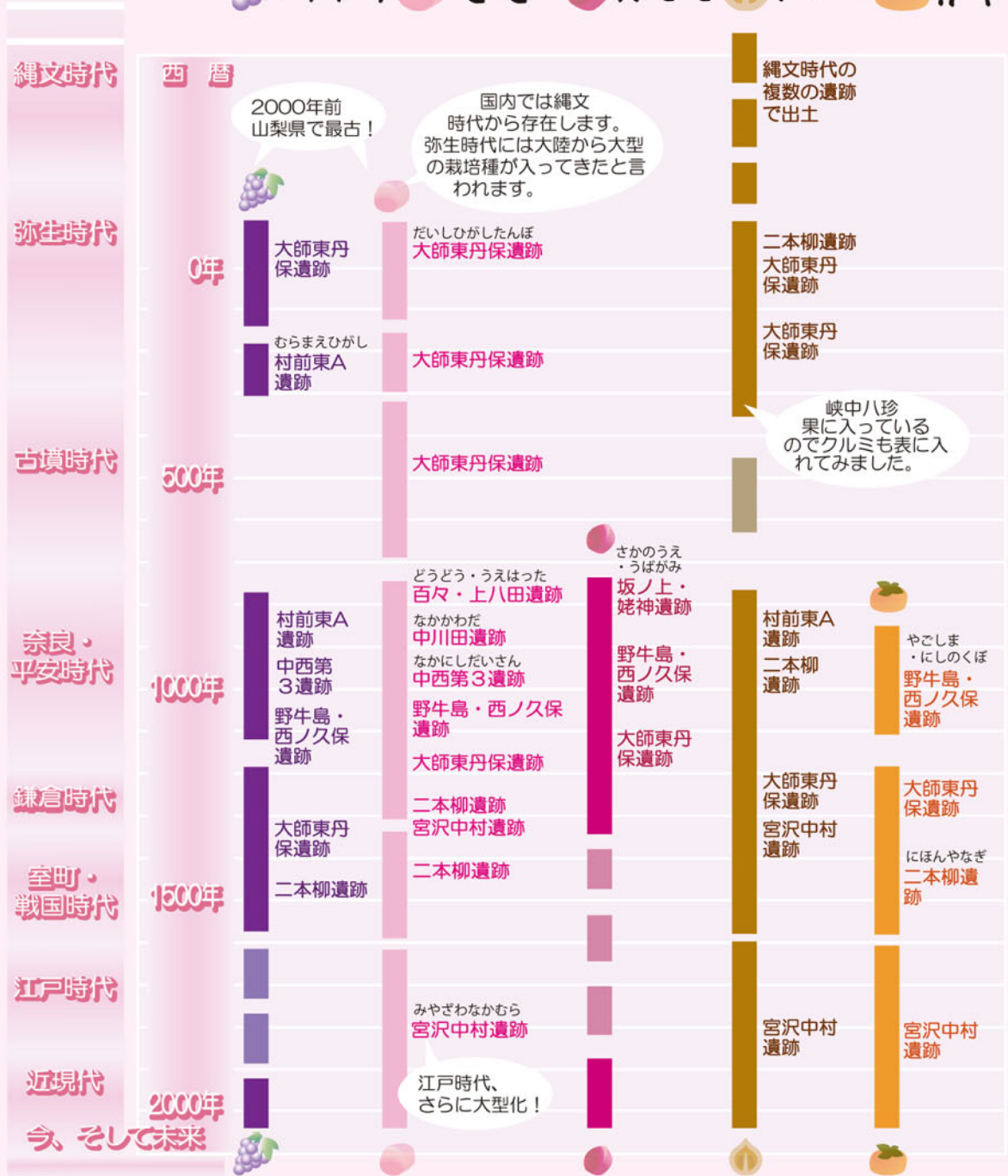
ところで、同じ遺跡から、山梨県で最古のモモ核が発見されていることはご存知ですか？ブドウのタネも一緒です。ともい今から二〇〇〇年も前のものなんです。

南アルプス市のフルーツってこんなにも歴史が厚いんですね。ステキな魅力です。固いモモをかじりながら、うちのま

※核:種を包む殻のことで一般的にいうタネと呼ばれるものです。
※モモ核以外の写真は各遺跡の発掘調査報告書からの転載です。(山梨県立考古博物館所有)

うちのまちの遺跡からみたフルーツ年表

ブドウ モモ スモモ クルミ かき



遺跡からフルーツの種子などが発見されることがあります。南アルプス市からは、山梨県で最古のモモとブドウのタネが発見されています。約二〇〇〇年前、弥生時代からの厚い歴史があるのですね。

フルーツ王国のフルーツ

※水分を多く含む粘土層などでは空気が遮断されるため、木や種子などの有機物は腐りにくくなります。
※誌面の都合で遺跡の場所を示すことができませんでした。ふるさと文化伝承館ではフルーツの発見された遺跡の位置をご紹介します。ぜひご利用ください。